



百人一步通信

～「一人の百歩より百人の一步」の社会を作ろう～

【発行】 今井和夫とともに歩む「百人一步の会」
【代表】 今井和夫（宍粟市議会 宍志の会所属）
〒 671-3211 兵庫県宍粟市千種町岩野辺 1065
☎ 090-9610-2511
✉ tamago@imaifarm.jp

農業・農地を大事にしない国は人の命・暮らしも大事にしない。みんな共通している。農地は農家だけの問題ではない。

夏が暑かった分、今年の紅葉は鮮やかです。赤・紅・茶・黄・橙、無数の色に彩られる山は見る者の息を止めるほどです。これがお手元に届く頃にはもう霜が降りていることでしょう。

「今年はコメの収穫が少なかった」とよく聞きます。（うちはほったらかして特に少なかったです。）水害のあとの酷暑。私の住む千種町でも 35℃が当たり前のような日が続きました。イネにとっても過酷だったのでしょうか。それでも皆様の世話の甲斐あって宍粟も収穫の秋を迎えました。

一宮町・More 繁盛『繁盛米』の収穫

右の写真、初秋の霞の中、たわわに実ったコシヒカリが収穫を待っています。

ここではまちづくりグループ「More 繁盛」を立ち上げ、「繁盛米」「桑の葉茶」などいろんな特産品づくりをされています。

また、神戸・姫路などの方と田んぼのオーナー制度を作り、田植え、草取り、稲刈り体験とセットでコメを販売されています。この冬には、狩



一宮町・繁盛地区

猟体験交流会も予定されているそうです。

2016 年 3 月の繁盛小学校閉校を機に始められました。地域起こし協力隊の方も加わり、三つの部会（農産・特産品、林業・環境、料理開発）をつくり、広報紙も出されています。

皆さん頑張られています。ともに手をつないでいければいいですね。

奇跡の収穫!! 波賀町飯見地区

この通信の 4 号で「ライスおじさん」で紹介させていただいた波賀町飯見地区。ここは『播州コシヒカリ飯見の郷』というブランドでみんなで力を合わせて田んぼを守っておられます。共同で毎年、食味検査もされ都会の消費者に直接販売されています。耕作放棄田ゼロということだそうです。



ところが、7 月 7 日の豪雨で水路が埋まってしまう、そのうちの 7ha の田んぼに水が全く来なくなってしまいました。かなり大きながけ崩れのため早期の復旧は無理。その後の

日照りで日に日に田んぼは干上がり、今年はもうダメかと半ばあきらめかけたそうですが、白くなってしまうイネを見るに堪えかねて、皆さん立ち上がりました。

使わなくなった消防のポンプを借りてきて川から水をあげ、水中用のポンプもやっと借りることができ、8 月 5 日にとうとうまた田んぼに水が入ったそうです。

「例年にくらべ収量は半分だが収穫できた。みんなの力。飯



見の守護神『ライスおじさんと愛ちゃん』のご加護。奇跡です!!」と農会長さんも感慨深げに言われていました。地区の皆さんの熱い思い、地区の団結力のたまものです。

本当に消費税は社会保障のために使われてきたの???

来秋から消費税が 10% に上がるといひます。「それで保育料無料化を実施する」と。でも、今までずっとそうでした。「社会保障を充実するため」そう言って消費税は上げられてきましたが、現実には、年金や介護費はずっと削られてきています。

国の一般会計の中の各税の額 (兆円)

単位 兆円	1989 年	2016 年	増減
所得税	21.4	17.6	- 3.8
法人税	19.0	10.3	- 8.7
消費税	3.3	17.2	+ 13.9
その他	11.2	10.4	- 0.8
税収合計	54.9	55.5	+ 0.6

(財務省 HP より)

左表を見て下さい。比較しやすいように税収合計がほぼ同額の二つの年を選んでいるのですが、これを見れば、消費税が増えた分とほぼ同額、法人税と所得税が下がっているのが分かります。

簡単に言うと、消費税は私たちの社会保障のためではなく、現実には「特に大企業の法人税と大金持ちの所得税を減らすためのものだった」ということのようにです。(年により数字はまちまちですが、大きな傾向としては間違いのないと思います。財務省 HP「税収に関する資料」で検索すれば詳しいグラフが出てきます。)

テレビでは「増える社会保障費のため、保育料無償化のため」といひます。政府もそういひます。でも、真実はどうも違うのです。私たちはひょっとしたら、だまされているのかもしれない。だって、本当に社会保障費や教育費が必要ならば、法人税率も所得税率も同様に引き上げるのが筋でしょう。(しかも大企業は過去最高の利益をずっと上げているのにです。)

今までと同じだと、今回も消費税率が上がる分、また法人税率が下がり(ちゃんと計画されているようですがマスコミは言いません)、保育料無償化の費用は、年金・介護・福祉などが削られることで作られることになっていくのでしょうか。(防衛費は上がりますが～)

(10アール当り)

『中山間地 反当 10 万円 (平均) の
所得補償』の声を上げましょう!!

また、農業の話をして。下の新聞記事を見て下さい。

スイスでは小規模農家にちゃんと所得補償が与えられ守られている。しかも、都会の消費者がそれを率先して言う。なぜと聞くと「食料安全保障のため」と即答すると。ため息が出るほどの日本との違いです。だから、「アルプスの少女ハイジ」の美しい風景が保たれているのです。

農家の皆さん、あきらめるのはまだ早いです。あきらめて田んぼを荒らしてしまう前に声を上げましょう。田んぼは個人のものだけど、その値打ちは個人だけのものではありません。日本に生まれ来る子どもたちみんなのものでもあるのです。『このままでは田んぼは荒らしてしまう。若者が農業で生活できるような制度をつくろう!!』と声を上げましょう。

そして、非農家の皆さん、これは農家だけの問題ではありません。将来の子どもたちの食料確保の大きな問題です。このままでは、いつか店頭から食料品が消えてしまうときが必ず来ると思います。1億2千万人もの食料を安易に外国から輸入すればいい(今の日本は家畜のエサを含めると7割を輸入)と言いながら、自国の農地をつぶしているのは日本くらいです。取り返しのつかないことが進もうとしています。

前号でくわしく書きましたが、宍粟市のような中山間地の田んぼに反当10万円(平均)の所得補償を出すだけで全国で9700億円くらいあればできることです。反当10万円出れば若者が農業を仕事にして生活できるのではないのでしょうか。

その他の農業全体への補助金も含めれば3兆円くらいあれば、日本の農業は復活し食料は自給でき地方は永遠に続きます。

『農業守る意義 スイスとの背離痛感』～日本農業新聞 11月5日(抜粋)～

スイス国民はなぜ、そこまでして農業を保護するのかと尋ねると、同代表は「食料安全保障のため」と即答。さらに「生命の源をつくる農業は高潔で喜びにあふれる」と哲学的な言葉も飛び出す。これも同国民の一般的な概念らしく、商店主などの農家以外の職業の人に農業とは「問うと喜び」「命」などと返された。日本の消費者は農業と食料安全保障をどう考えているのか。ましてや命、喜びなど農業の精神的価値を考えられるだろうか。日本でも、農業に公共性・重要性を見だし、農業を守ろうとする消費者はいらぬだろうか。考え込んだ。(齋藤花)

直接民主制のスイスでは、農家ではない市民が食料安全保障や国内農業保護を憲法に織り込むことを発案し、国民投票を行う。市民の農業保護意識が強いのだ。なぜ農家ではない人が農業改革をするのか、と尋ねると「納税者の権利」と返答した。小規模農家は年額約36億スイスフラン(約4060億円)の政府からの直接支払いで保護されている。そうだ。「国民が支払って存続させているから全員が農業に対して真剣だ」と強調した。

投稿していただきました (50代男性) ～皆様からの投稿をお待ちしています～

私たち家族は都会から宍粟に引っ越してきました。

子どもの通学時間に自分の散歩の時間を合わせてくれた近所のおじいさんとランドセルを揺らしながら田んぼの中の道を行く3人の子供たちをのどかに眺めていたのがもう一昔前の話となりました。

都会から来ると不便なことがたくさんあるだろうと思われるかもしれませんが、そんなことは感じずに暮らしてきました。学校・病院・金融機関等ちゃんとあるし、携帯もネットもつながるし、好きなアーティストのライブに行けないわけでもない。電車がいないことを不便だと感じることもありましたが、神姫バス的高速バスの便利さは侮れません。特に広大な敷地に無料で駐車していいというパークアンドライドができてからは。これはまさに都会にはできない芸当で、他市の人にも自慢しました。

都会の暮らしは便利だけれどもストレスもいっぱいです。自分たちの暮らすほんのちょっとの空間のために夫婦は一所懸命働き、ラクするためにはずの技術を開発するのに命を削るまでの労働をし、

通う学校が選べるから少しでも良い学校に行くのに躍起になって、地元の学校を良くしようなんて考えない。

自分たちが子育てをするのはここではないなという思いから新天地を求めて宍粟へやってきたのです。結果は大正解でした。豊かな自然と、心優しい人々との出会い。今まで得られなかったものをたくさん得ました。そして失ったはずの便利な生活は、私たちにとって大して重要ではなく、また望めばいつでも手に入れることができることに気づきました。便利なものや情報・娯楽は、ちゃっかり都会からいただきます。そうしながら、田んぼの中を行くおじいさんと子供の姿を見ていたい。そう思っている私たち夫婦は、とても得をした気持ちでここで生きています。

国の行政は都市部中心になりがちですが、田舎に焦がれる気持ちは多くの方が持っていると思います。急に扱いが良くなっても、私たちがしっかり前を向いてここでしあわせに生きていくことが田舎を守っていくことになるのではないかと感じています。

最後までお読みいただきありがとうございました。ご意見、ご感想、ご指導、・・何卒よろしくお願い申し上げます。

次号は1月頃の予定です。なかなか予定通り出せなくて申し訳ありません。

農業を大切にする国に

2018
10/19

(Tさん)

70歳

業製品を多く輸出し小麦、大豆、牛肉、木材などを輸入しました。農業が衰退し、すべての田畑が使われるのが理想ですがそれには十分な公的助成が必要で、今井さんは助成を実現させたいと書いていました。

8月に出した『百人一步通信第5号』

に

関

して

の

ご

投

稿

で

す。

ま

だ

に

あ

り

ま

し

て

い

ま

す。

私

は

今

、

宍

粟

市

内

に

限

ら

ず

、

い

ろ

ん

な

と

こ

ろ

で

、

「

農

業

へ